

①授業から学んだこと

(体育)

授業から学んだことは、まず端的にわかりやすく説明することの重要性だ。長い説明だと通らず、生徒が別の行動をすることが多い。そのため、今日やる授業の流れをホワイトボードに書くなどして説明の時間を減らす。すぐにやってほしいポイントだけを伝えることで、「今何をすればよいか」というのが明確になり、生徒がスムーズに行動を移しやすくなる。また、説明すること・伝えたいことを箇条書きでまとめて確実に伝えることやそのシミュレーションを行うことで、説明の時間を極力減らす。

次に、体育は場の工夫が重要だと学んだ。同じ授業でも生徒やクラスの実態に合わせて、場を作り変えることで、生徒が主体的に活動するようになった。例えば、器械体操で跳び箱が怖くて壁にへばりついている生徒が多ければ、跳び箱をさらに低くする・横に落ちて安全なマットを引く。また、1か所に行列ができていれば、それと同じ場をもう一つ作り、活動量を多くするなどだ。

最後に、タイムマネジメントの大切さを学んだ。授業でタブレットを使用したけど、初めは指示が甘く、生徒の自由度が高すぎることで、集中力を持続させることはできなかった。そのため、何分までは見本を動画で見る時間、何分までは練習の時間、何分までに撮影を済ませるなど時間を区切ることで締まりのある授業になった。また、今日達成したい目標を確実に行わせるための時間配分も計算することができ、より効果的だったと考える。

(保健)

授業から学んだことは、まず体験的な活動をすると盛り上がるということだ。飲酒の授業で授業の中間にブレイクタイムとしてパッチテストを行った。その活動があったことで、リラックスでき、最後まで集中して話を聞いてくれた。また、授業後にも「パッチテストどうやった？」と生徒同士でコミュニケーションを取ったり、授業外でも保健のことに興味を持ってくれることが良かったと感じた。

次に、授業の最後にまとめや振り返りがないと締まらないということを学んだ。授業の最後の活動で寸劇(ロールプレイ)をやり、楽しみながら学べたが、まとめが弱く、振り返りが「楽しかった」という感想にとどまっていることが多かった。そのため、まとめにロールプレイングの模範解答を示したり、自分が生徒たちに何を注意してほしいかメッセージを送った。そうすると、振り返りの書く内容が変わり、生徒が「この授業で学んだことを将来に活かそう」と前向きな言葉に変えることができた。

最後に、実体験を話すと生徒が一生懸命興味を持って聞くということを学んだ。「これは実体験なんやけど」と前振りをすると、一気に視線が集まる。生徒を惹きつけるために、その分野で実体験のエピソードを用意しておくといふと学んだ。

②生徒との交流で学んだこと

まずは自己開示をすることが大事と学んだ。「自分はどんな人か・何が好きか・何をやってきたか」など細かく伝えることで共通点を探る。共通点がなければ、生徒が今ハマっているものを勉強して、話せるレベルまで持っていくことで生徒の心を掴んでいく。また、共通点と共にツボを探す。どういう時に笑うのか・テンションが上がるのかを観察することが大事だ。

次に、なかなか歩み寄ってこない生徒に対しては慌てずに、生徒から距離を縮めてくるまで温度感を合わせることに大事だと感じた。人見知りの子に対して、ガツガツ行き過ぎると、逆に距離を取られてしまうため、注意が必要。

最後に、部活や休み時間・掃除の時間などが生徒もリラックスしているため、コミュニケーションを取るハードルが低いと感じた。また、その時の様子を観察しておくことで、話すネタもでき、それを基に話すと「自分のことをちゃんと見てくれている」と感じてくれる。さらに、顔と名前をいち早く覚え、呼ぶことでより距離が縮まる。

③職員室や教官室での様子から学んだこと

とにかく生徒がいる時間は忙しいと感じた。欠席者への連絡・問題を起こした生徒の指導・問題を未然に防ぐための巡回など先生方は常に動いていた。しかし、その忙しさの中でも、挨拶をしたら笑顔で返していただいたり、困っていたら声をかけてくださったりなどとても温かかった。私自身も教員になったら、だれにでも笑顔で挨拶をし、困っている先生がいたらすぐに手を差し伸べられる先生になりたいと思った。

④教育実習全般にわたって

教育実習の前に、学生ボランティアや研究授業など色々な先生の授業を観察し、授業づくりのイメージをしていたため、授業を形にすることはそこまで苦戦しなかったと感じる。体育の授業に関しては、部活動指導を行っている、つまりきやすいところが見えやすい、また躊躇なく声かけをすることができる。そして、とにかくいろんな子どもたちと触れ合うことが何よりも重要だと感じた。さらに、生徒が興味を引くような話や経験などたくさんしておくことや趣味を増やす・語れるエピソードを用意しておくと思った。

教育実習を通して、授業づくりの難しさを感じると共に、楽しさややりがいをとて感じることもできた。自分自身が一生懸命考えたことは、生徒にもよく伝わる。「楽しかった、分かり易かった」この一言で、努力して良かったと感じさせられた。来年教員になった時は、この経験を活かし、一人でも多くの子どもたちに良質な学びを提供し、「生きる力」を育てていきたい。そうすることで、学校教育に貢献したいと考えた。